

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09113902 A**

(43) Date of publication of application: **02.05.97**

(51) Int. Cl.

**G02F 1/1335**

**B05D 5/06**

**G02B 5/02**

**G09F 9/00**

(21) Application number: **07271519**

(71) Applicant: **DAINIPPON PRINTING CO LTD**

(22) Date of filing: **19.10.95**

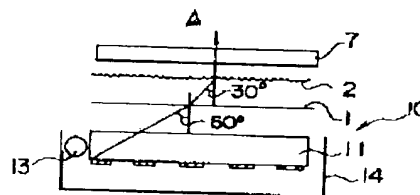
(72) Inventor: **ARAKAWA FUMIHIRO**

(54) **LIGHT DIFFUSION FILM AND DISPLAY DEVICE**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a liquid crystal display and light diffusion film with which the brightness of a front surface is enhanced and the scattering dots of a light transmission plate are concealed.

SOLUTION: The liquid crystal display 10 has a reflection case 14 and the light transmission plate 11 which is disposed on the front surface side of a reflection sheet 14 and has the scattering dots. The front surface side of the light transmission plate 11 is successively provided with the light diffusion film 1, a prism sheet 2 and a liquid crystal panel 7. The light diffusion film 1 is so formed that the peak of its exiting angle is 30 to 70° when the incident angle thereof is 60 to 85°. The haze value of the film is specified to ≥80%.



COPYRIGHT: (C)1997 JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-113902

(43)公開日 平成9年(1997)5月2日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 F 1/1335	5 3 0		G 0 2 F 1/1335	5 3 0
B 0 5 D 5/06	1 0 4		B 0 5 D 5/06	1 0 4
G 0 2 B 5/02			G 0 2 B 5/02	C
G 0 9 F 9/00	3 1 8		G 0 9 F 9/00	3 1 8 B

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平7-271519

(22)出願日 平成7年(1995)10月19日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)発明者 荒 川 文 裕

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

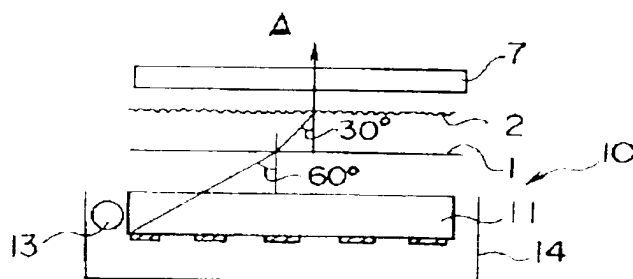
(74)代理人 弁理士 佐藤 一雄 (外3名)

(54)【発明の名称】 光拡散フィルムおよび表示装置

(57)【要約】

【課題】 正面の明るさを高め、導光板の散乱ドットを隠すことができる液晶ディスプレイおよび光拡散フィルムを提供する。

【解決手段】 液晶ディスプレイ10は反射ケース14を、反射ケース14の表面側に設けられ散乱ドット12を有する導光板11を備えている。導光板11の表面側は、光拡散フィルム1、グリッドパターン13および液晶パネル7が順次設けられている。光拡散フィルム1は、入射角が60°、80°のとき入射角の中心が30°、45°となるように設計され、その入射値は80%以上となる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】一方の面または両方の面が、凸部形成面となっている光拡散フィルムにおいて、フィルムに対する光の入射角が $60^{\circ} \sim 85^{\circ}$ のとき出射角のピークが $30^{\circ} \sim 70^{\circ}$ となり、カーブ値が80%以上となるよう構成したことを特徴とする光拡散フィルム。

【請求項2】裏面に散乱ドットを有する導光板と、該導光板上に配置されたプリズムシートと、前記導光板の端部に設置された光源と、プリズムシート上に配置された液晶パネルとを備え、前記プリズムシートと前記液晶パネルとの間に請求項1記載の光拡散フィルムを配設したことを特徴とする表示装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、光拡散フィルムおよび液晶ディスプレイ等の表示装置に係り、とりわけプリズムシートと併用する際、入射角と出射角をバランス良く調整した光拡散フィルムおよび表示装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】各種ディスプレイあるいは証明器具において、光源の光を均一に広げ視認性を高めるために光拡散フィルムが用いられている。従来の光拡散フィルムは、ポリメチルメタクリレート樹脂、ポリカーボネート樹脂等の光透過性樹脂からなるフィルム基材の表面に凹凸を形成したり、あるいはポリメチルメタクリレート樹脂、ポリカーボネート樹脂等の光透過性樹脂からなるフィルム基材に、光拡散剤を分散したり、さらには光拡散剤を光透過性樹脂中に配合分散させた組成物をフィルム基材上に塗布したりして作成される。

【0003】図5に示すように光拡散フィルム1は通常、散乱ドット12を有する導光板11と液晶パネル7との間に設置され、ケース14内に設けられた光源13からの光を拡散させるものである。このような目的の光拡散フィルムは数多く提案されている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、光源13からの光を集光して液晶パネル7正面の輝度を高めるため、光源13と液晶パネル7との間にプリズムシートを配置する場合がある。しかし、この場合、プリズム

シートから光源からの輝度を向上させることができ、かつ導光板の散乱ドットを隠すことができる光拡散フィルムおよび表示装置を提供する。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、一方の面または両方の面が、凸部形成面となっている光拡散フィルムにおいて、フィルムに対する光の入射角が $60^{\circ} \sim 85^{\circ}$ のとき出射角のピークが $30^{\circ} \sim 70^{\circ}$ となり、カーブ値が80%以上となるよう構成したことを特徴とする光拡散フィルム、および裏面に散乱ドットを有する導光板と、該導光板上に配置されたプリズムシートと、前記導光板の端部に設置された光源と、プリズムシート上に配置された液晶パネルとを備え、プリズムシートと前記液晶パネルとの間に請求項1記載の光拡散フィルムを配設したことを特徴とする表示装置である。

【0008】本発明によれば、光光源フィルム1に対して入射角が $60^{\circ} \sim 85^{\circ}$ で進入した光は、出射角 $30^{\circ} \sim 70^{\circ}$ で出射してプリズムシート内に進入する。その後、光はプリズムシートにより出射角がより小さくなるよう集光される。このためプリズムシートから液晶パネル側へ入射する光の輝度を高めることができる。また拡散フィルムのカーブ値は80%以上となっているので、液晶パネル側から視認した場合、光拡散フィルムによって導光板の散乱ドットを確実に隠すことができる。

## 【0009】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施例について説明する。図1乃至図4は本発明の一実施例を示す図である。

【0010】まず図1により本発明による表示装置（液晶ディスプレイ）について説明する。図1に示すように、液晶ディスプレイ10は裏面に散乱ドット12を有する導光板11と、この導光板11の裏面側に設けられた反射ケース11'と、導光板11、対して光を入射する光源13とを備えている。

【0011】導光板11の表面側（視認側）には、更に光を拡散する光拡散フィルム1、光を集光するプリズムシート2および液晶パネル7が順に設けられている。

【0012】なお、図2に示すようにプリズムシート2を液晶パネル7との間に、追加のプリズムシート2aを設け、この追加のプリズムシート2aと、1枚のプリズムシート2との間で光を集光させることも可能である。

【0013】一方、図3に示すように、光源13と液晶パネル7との間にプリズムシート2を配置する場合、このプリズムシート2の裏面に

図4に示すように、光を集光するプリズムシート2aを設け、このプリズムシート2aと、1枚のプリズムシート2との間で光を集光させることも可能である。

【0014】

【0015】以上のように、本発明による表示装置は、光源からの光を集光して液晶パネル正面の輝度を高めるため、光源と液晶パネルとの間にプリズムシートを配置する場合がある。しかし、この場合、プリズム

光透過性樹脂1aの裏面にはバックコート層5が設けられている。

【0015】このような光拡散フィルム1には、表面形状として2つの形態が考えられる。その第一は、光拡散剤4が光透過性樹脂3から突出して表面凹凸が大きいものであり(図3(a))、第二は、光拡散剤4が光透過性樹脂3中ほとんど埋没して表面凹凸が小さいものである(図3(b))。

【0016】次に光拡散フィルム1の各構成要素の材料について説明する。まず光透過性基材1aは賦性性、透明性、耐光性、イオン性適性等からポリカーボネート樹脂、アクリル樹脂、ポリエチレンテレフタレート樹脂、ポリブチレン樹脂を主成分とするフィルムを使用することが望ましく、基材1aの厚みについては特に制限はないが、取扱易さの点から25~200 $\mu$ が望ましい。

【0017】また光透過性樹脂3としては、例えばポリエチレン系樹脂、アクリル系樹脂、ポリスチレン系樹脂、ポリ塩化ビニル系樹脂、ポリ塩化ビニル系樹脂、ポリブチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリウレタン系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリ酢酸ビニル系樹脂、ポリビニルアルコール系樹脂、エポキシ系樹脂、セルロース系樹脂、オルガノシロキサン系樹脂、ポリイソブレン系樹脂、ポリサルホン系樹脂、ポリアリレート系樹脂等が用いられる。この中でも、使用される基材1a及び光拡散剤4によって異なるが、ポリエチレン系樹脂、アクリル系樹脂、ウレタン系樹脂がイオン性適性等の問題から特に望ましい。

【0018】光拡散剤4に使用されるものとしては、アクリル、有機シリコン、ポリブチレン、ポリブチレン、圧縮樹脂、シリカ、炭酸カルシウム、酸化チタンを主成分とするビーズあるいはフィラー及びそれらの中空\*

\*ビーズであることが望ましい。このうちアクリルビーズは耐候性等から特に望ましく、使用される光拡散剤4の平均粒子系は、1~50 $\mu$ が望ましい。またこれらの光拡散剤4は単独もしくは2種類以上の組み合わせで用いても良い。

【0019】なお、上記基材2、光透過性樹脂3および光拡散剤4中に商品価値を高めるために光安定剤、熱安定剤、帯電防止剤、その他の添加剤を別に添加配合しても良い。

【0020】光拡散剤と光透過性樹脂との好ましい配合比は、使用される材料・屈折率・光拡散剤の粒径等に依存するが、光透過性樹脂100重量部に對し、10~150重量部程度である。

【0021】ところで、ビーズ状の光拡散剤4が光透過性樹脂3から突出した光拡散フィルム1(図3(a))は、光の入射角が60°~85°のとき出射角のピークが30°以上となっており、またそのヘイズ値は85~88%となっている。また光拡散剤4が光透過性樹脂3中ほとんど埋没している光拡散フィルム1(図3(b))は、光入射角のピークが60°~85°のとき出射角のピークが70°以下となっており、またそのヘイズ値は80%以上となっている。

【0022】図4に光拡散フィルム1の入射角と出射角の関係について説明する。一般に光源13から導光板11を経た光は、光拡散フィルム1に對して60°~85°の入射角で進入する。図4は、光拡散フィルム1に對して60°の入射角で光が進入した場合の出射角のピークを示したものであり、出射角のピークは30°~70°の間に入っている。

【0023】上記光拡散フィルム1としては、下表のものを用いることができる。

【0024】

表1  
出光ピーク角(°)  
(入射角70°のとき)

光拡散剤の種類とヘイズ値  
フィルム (cd/m<sup>2</sup>) (%)

Sample 1 100000 85.0

Sample 2

Sample 3

Sample 4

Sample 5

Sample 6 100000 85.0

Sample 7

Sample 8

Sample 9

【0025】図5は、図3(a)の構成で、光透過性樹脂3にアクリル系樹脂を用いた光拡散フィルム1の構成例を示す。この構成例では、光透過性樹脂3にアクリル系樹脂を用いた光拡散フィルム1の構成例を示す。

【0026】図6は、図3(b)の構成で、光透過性樹脂3にアクリル系樹脂を用いた光拡散フィルム1の構成例を示す。この構成例では、光透過性樹脂3にアクリル系樹脂を用いた光拡散フィルム1の構成例を示す。

【0027】

【0028】

【0029】

【0030】

フィルム1は図3(b)に示すタイプのものであり、入射角が $6.0^{\circ} \sim 8.5^{\circ}$ のとき出射角のピークが $5.0^{\circ} \sim 8.0^{\circ}$ となっている。このため光拡散フィルム1から出射した光はプリズムシート2に対して $5.0^{\circ} \sim 8.0^{\circ}$ の入射角で進入する。

【0027】次にプリズムシート2に $5.0^{\circ} \sim 8.0^{\circ}$ の入射角で進入した光は、プリズムシート2から $2.0^{\circ} \sim 5.0^{\circ}$ の出射角で出射して追加のプリズムシート2aに $2.0^{\circ} \sim 5.0^{\circ}$ の入射角で進入する。追加のプリズムシート2aに $2.0^{\circ} \sim 5.0^{\circ}$ の入射角で進入した光は、追加のプリズムシート2aから $0^{\circ} \sim 3.0^{\circ}$ の出射角で出射し、液晶パネル7内に進入する。

【0028】このように、図1および図2に示す本実施例によれば、液晶パネル7正面における輝度を高め、光\*

インキ：東洋紡(株)製バイロン200 ポリエステル樹脂 4.3重量部  
光拡散剤：積水化成工業(株)製MBX-10  
(平均粒子径 $10\mu\text{m}$ ) 10.0重量部  
希釈溶剤：メチルエチルケトン  
トルエン 6.0重量部  
固形分 6.0重量部

上記のインキを基材の片面に乾燥時の塗工量が $9\text{g}/\text{m}^2$ にコーティングした結果、入射角 $7.0^{\circ}$ の時のこの光拡散フィルムの出射角は $4.2^{\circ}$ であった。

【0031】図1で示すように導光板上にこの光拡散フィルムとレンズフィルムを1枚重ねた構成で導光板の法線方向 $0^{\circ}$ で輝度計によって輝度を測定した結果、 $122.3\text{cd}/\text{m}^2$ と良好であり、導光板背面のドットパターンも認められなかった。

※

インキ：東洋紡(株)製バイロン200 ポリエステル樹脂 10.0重量部  
光拡散剤：積水化成工業(株)製MBX-10  
(平均粒子径 $10\mu\text{m}$ ) 4.3重量部  
希釈溶剤：メチルエチルケトン  
トルエン 10.0重量部  
固形分 10.0重量部

上記のインキを基材の片面に乾燥時の塗工量が $1.6\text{g}/\text{m}^2$ にコーティングした結果、入射角 $7.0^{\circ}$ の時のこの光拡散フィルムの出射角は $5.1^{\circ}$ であった。

【0033】図2で示すように導光板上にこの光拡散フィルムとレンズフィルムを2枚重ねた構成で導光板の法線方向 $0^{\circ}$ で輝度計によって輝度を測定した結果、 $14.5\text{cd}/\text{m}^2$ と良好であり、導光板背面のドットパター

※費電力の削減を図ることができる。また光拡散フィルム1は、所定のハイズ値を有しているので、液晶パネル7側から目視した場合には、導光板11の裏面側に設けられた散乱ドット12がみえることはない。

【0029】

【実施例】以下、本発明の実施例について述べる。

## 実施例1

図3(a)に示した光拡散フィルムの実施例について以下に示す。基材は $100\mu\text{m}$ 厚のポリエチレンテレフタレートフィルム(アイ・シー・アイ・シャパン(株)製MX-518)を使用した。光拡散インキの組成は以下の通りである。

【0030】

## ※実施例2

図3(b)に示した光拡散フィルムの実施例について以下に示す。基材は $100\mu\text{m}$ 厚のポリエチレンテレフタレートフィルム(アイ・シー・アイ・シャパン(株)製MX-518)を使用した。光拡散インキの組成は以下の通りである。

【0032】

【図1】本発明による表示装置の一実施例を示す断面図

【図2】表示装置の他の例を示す断面図

【図3】光拡散フィルムを示す側断面図

【図4】光拡散フィルムに入射角が $6.0^{\circ}$ である入射光の場合の出射角 $4.2^{\circ}$ を示す図

【図5】図3に示す光拡散フィルムを示す図

【0034】図1に示すように、本発明による表示装置の一実施例は、液晶パネル7、導光板11、光拡散フィルム1、レンズフィルム2、および液晶パネル7の背面に設けられた散乱ドット12を有する。

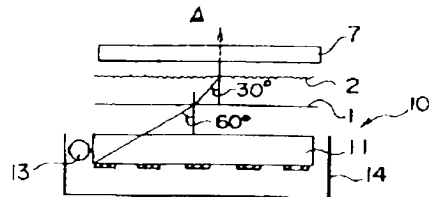
【0035】図2に示すように、本発明による表示装置の他の例は、液晶パネル7、導光板11、光拡散フィルム1、および液晶パネル7の背面に設けられた散乱ドット12を有する。

【0036】図3(a)に示すように、本発明による表示装置の一実施例は、液晶パネル7、導光板11、光拡散フィルム1、および液晶パネル7の背面に設けられた散乱ドット12を有する。

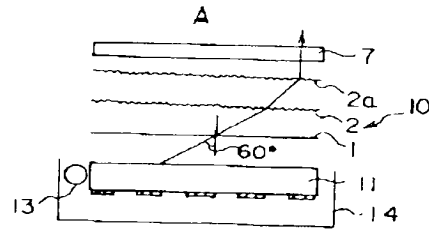
【0037】図3(b)に示すように、本発明による表示装置の他の例は、液晶パネル7、導光板11、光拡散フィルム1、および液晶パネル7の背面に設けられた散乱ドット12を有する。

1.2 散乱ドット

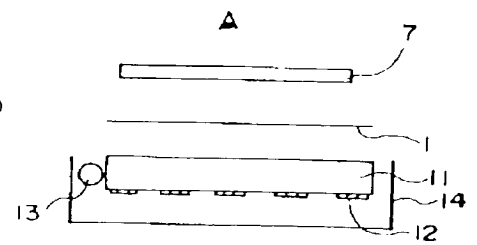
【図1】



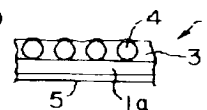
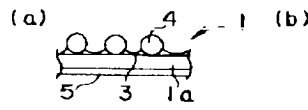
【図2】



【図5】



【図3】



【図4】

